

記念トレインなび助号 長野から小諸を運行



軽音楽部のパフォーマンスに乗客はカメラを構えた

長野県教育委員会としなの鉄道の連携イベント、信州総文祭記念トレイン「信州なび助号」が3月24日、乗客56名を乗せて長野駅から小諸駅間を走行した。車内は実行委員会広報デザイン部会と佐久平総合技術高校の美術部、岩村田高校の美術部が制作したナビ助のパネルとフラッグが装飾された。

各駅で行われた専門部門によるイベント

駅名	内容
戸倉	将棋部門PR、詰将棋チャレンジ
西上田	軽音楽部門によるアコースティックライブ
上田	美術・工芸部門によるPRパフォーマンス
田中	弁論部門によるPR

小諸までの道中では、将棋や軽音楽などの各部門の生徒がパフォーマンスを披露した。乗客は「様々な装飾や工夫がされていて驚いた」「孫に車掌の体験をさせられてうれしい」「各駅で行われたイベントが面白かった」と話



制作
長野県高等学校文化連盟
新聞専門部

第9号



2018信州総文祭

担当：
長野高校新聞部
2年 池田寛子

文芸部門が案内 追分巡る文学ツアー

文芸部門は8月の総文祭と同じルートをめぐる文学散歩ツアーを実施した。ツアーでは「軽井沢町追分宿郷土館」と「堀辰雄文学記念館」を訪れた。追分宿は中山道と北国街道の分岐点に位置し、現在では郷土館で追分地区ゆかりの古い書籍や資料などを展示している。また明治

した。小緒に到着後はステラホールで「わがまちの未来」をテーマにした高校生プレゼンテーションコンテストが開催された。また軽井沢追分では文芸部門が案内する文学散歩ツアーが行われた。

小諸で信州総文祭を宣伝

小諸では演劇部門のステージパフォーマンスと生徒実行委員会の総文祭宣伝が行われた。演劇部門の生徒は会場に響き渡るはっきりとした声で活動紹介したり寸劇を発表した。会場で鑑賞していた高校生は「マイクを通してさなくても熱意が伝わってきた」と驚いていた。またホールの隣では小諸商業高校の生徒が丸山珈琲のコーヒーマーケットを販売した。コーヒーマーケットは3種類あり、当日は3カ国のコーヒーマーケット豆を使

時代の文学作家である堀辰雄は代表作に「菜穂子」「風立ちぬ」をもち、晩年を軽井沢で過ごすほどそこを愛していた。文芸部門の久保田陽菜さん（長野吉田高校3年）と太田綾菜さん（長野高校2年）は、移動のバスの中や訪れた先で丁寧に説明したり質問に答えていた。ツアーに

参加した女性は「生徒の詳しい説明があったのでとても楽しい旅になった」と笑顔で話した。太田さんは「緊張したが進行を無事務めることができて良かった。説明不足のところもあるのですが、本番に向けてもっと色々調べたい」と振り返った。



旧街道の分岐点を説明する太田さん(中央)と久保田さん(右)

用した「スマイルブレンド」が人気だったという。小林優花さん（小諸商業高校2年）は「多くのの人に飲んでもらえたので嬉しかった。もっと多くのの人に飲んでほしい」と話した。信州総文祭は8月7〜11日で開催され既に残り4ヶ月を切っている。今までの宣伝活動を踏まえて、今後はより具体的な準備が進められる。